

1 学校教育目標

「かしこく すなおに 元気よく伸びる子どもの育成」

2 目指す姿（児童像・教職員像・学校像）

- ①論理的に考える子ども ②明るいあいさつをする子ども ③心と体を大切に子ども
- ①分かりやすさと子どもの満足度を追求する教職員 ②傾聴，理解，提案に努力する教職員
- ③保護者と連携する教職員
- ①学年で子どもを育てる学校 ②取組が説明できる学校 ③自信づくりと思い出づくりができる学校

3 現状と課題

○基礎基本の定着，学習意欲に二極化傾向があり，特別な支援を必要とする児童が多い。算数科の問題解決型問題の正答率が高学年になるほど低い。学習準備（忘れ物，チャイム着席，教材等の取扱い，整理整頓，片付け）の定着に個人差が大きい。基礎基本の定着向上のため，学習規律や学習習慣を徹底するとともに，問題解決力（論理的に考える力）の育成が必要である。授業の構造化「①目的意識の喚起，②自力解決，③小集団活動（話し合い），④集団解決，⑤まとめ」を図るとともに，学習課題の工夫，話し合いの場の設定，発問の吟味，構造的な板書（ノート指導），評価の工夫等により授業改善に努める。

○一部に自己肯定感が低く，集団への適応が難しい児童がいる。保護者並びに関係機関との連携をもとに，学年組織を活用したきめ細かな個別の指導支援が必要である。予防的な生徒指導と併せて，協同的な集団活動に取り組み，自己決定の場の設定，自己肯定感の育成，共感的な人間関係づくりを充実させる。そのため，生徒指導部を中心とした校内組織体制を整備する。学級経営に当たっては，児童の特性と内的動機を生かした「個別の取組」と「集団づくりの取組」のバランスを重視する。また単学級，担任だけの取組だけではなく，学年の報告・連絡・相談を密にし，学年ぐるみで実態と取組方向に共通認識を持ち，役割分担の明確な実践をめざす。学年による合同授業や集会・行事等の工夫，保護者への情報発信・対応等に係る学年連携を充実させる。これらにより支持的風土に支えられた学年・学級づくりを進めるとともに，一人一人の良さを肯定的に評価し，個別の課題を解決していく。

4 目標

【中期経営重点目標】 安心感の持てるクラスづくりを基盤に，算数科で自分自身の考えを明確に持ち，相手の考えを受け入れ，自分の考えを論理的に発表することで問題解決できる児童の割合を全クラスで70%以上にする。		【評価指標】 問題解決できる児童の割合 (問題解決型の問題の正答率)
短期経営重点目標（3年目）	評価指標	主な具体的方策
算数科において，4つの学年で，クラスの70%の児童が問題解決型の問題を解けるようにする。	算数科において，問題解決できる児童の割合 (問題解決型の問題正答率)	授業の中で，ノート等に， <b>めあて—考え—まとめ</b> を書かせ，問題解決型の授業に取り組み。単元のまとめでは，市教委が提示している評価問題に取り組み，評価する。
		週1回，家庭学習において既習の計算の復習問題に取り組み。
黙って，ていねいに，時間内にそうじができる児童の割合を70%以上にする。	黙って，ていねいに，時間内に掃除ができた児童の割合 (振り返りカード)	そうじの仕方を具体的に示し，オルゴールの曲の音が聞こえる静けさで，そうじをするよう指導する。
		すべてのそうじ場所を週に1回，指導する。(指導した後の改善について評価を行う)
		毎日，そうじ場所ごとのカードを活用し，掃除の仕方を振り返る活動を行う。
楽しく学校に来ることができない児童の割合を5%以下にする。	楽しく学校に来ることができたかどうかの児童の割合 (振り返り調査)	児童間のコミュニケーションの質を高めるため，週に1回は，協同学習を行う。 (協同学習については，平成21年3月 いじめ・不登校等予防的生徒指導の推進を参照のこと)
		週1回木曜日の朝の五小っ子タイムの中で，クラス全員が一つになるような遊びや活動を行う。 (担任は児童の活動の様子を見守る。金曜日のロング昼休憩も活用してよい)
		定期的な生活アンケートや日記指導，児童との話し合いや相談を通し，一人一人の児童の心の様子を把握し，問題解決につなげていく。